

220 鶴-平和への祈り (2023年12月14日)

ロワール地方にあるボーバル動物園には、タンチョウ（丹頂鶴）がいます。タンチョウは鶴の一種で、学名を *Grus japonensis* と言い、日本を代表する鶴です。ユーラシア大陸東部のアムール川流域で繁殖し、日本の北海道で越冬する渡り鳥で、頭部に赤い模様があるのが特徴です。



中国と同じく、鶴は、日本では「鶴は千年、亀は万年」と言われ、長寿を象徴する縁起の良い生き物だと考えられてきました。鶴は、古くから日本の美術工芸品の意匠として用いられています。当然ながら鶴が千年生きるわけではありませんが、鶴の意匠には長寿の願いが込められています。ギメ東洋美術館は、鶴をデザインした大皿や日本刀の**鐔**（つば）を所蔵しています。大皿に描かれている多数の鶴や鐔は、左右の翼を頭上に揚げた円形になっています。この意匠は「鶴丸」と呼ばれており、**家紋**としても使われています。



鶴と言えば、千羽鶴をご覧になったことがある方がいるかもしれません。千羽鶴は、折り紙で作った折り鶴を糸で繋ぎ合わせたものです。千羽鶴の千は多数という意味で、折り鶴が必ず 1000 羽ないといけないというものではありません。千羽鶴の起源は明らかになっていませんが、一羽でも縁起の良い鶴をたくさん繋ぎ合わせることで、さらに大きな幸福が訪れることを人々は期待します。しばしば病気や災害からの回復を願って多くの人たちで千羽鶴を作り、困難な状況の中にある人たちに千羽鶴が届られます（写真下）。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

そして、今では千羽鶴には平和への祈りも込められています。1945年に広島で原爆により被爆した少女の佐々木禎子さんが、1955年に白血病の治療で入院中に、病気からの快復を願って、他の入院患者と一緒にたくさんの鶴を折りました。禎子さんは、残念ながら12歳の若さでこの世を去りましたが、広島の平和記念公園には「原爆の子の像」が建立され、そこに折り鶴が飾られるようになりました。こうして、折り鶴が平和と結びつけて考えられるようになりました。



歌川広重による「江戸名所百景」には、鶴が描かれた「蓑輪金杉三河しま」（みのわかなすぎみかわしま）があります（写真右）。江戸の三河島（現在の東京都荒川区東日暮里）は、かつては鶴の飛来地でした。毎年11月になると竹で囲いをして、餌付けが行われていました。東京に限らず、現在の日本では、実際に鶴を目にする機会はあまりありません。それでも、長寿や平和への願いと結びついた鶴は、白い羽を広げて空を飛ぶ優美な姿と重なって、幸せをもたらす高貴な鳥として日本文化の中に根付いています。

